先輩×後輩
対談インタビュー

● 対談者プロフィール

健康福祉局　子供未来応援課

【先輩】植本 圭哉（入庁8年目）㊧
【後輩】加藤 丈登（入庁1年目）㊨

「広島県庁で働く」

仕事内容と先輩のサポートについて

植本： 私たちが所属するネウボラ推進グループでは、広島県内の市町と一緒になって子育て支援を推進しています。

加藤： 私は補助金に関する事務の担当で、各市町で事業が円滑に進むよう取り組んでいます。ようやく仕事の流れがつかめてきたところですが、分からないことがあれば植本さんを含めて同じグループの先輩が教えてくれるので安心です。

職場内の雰囲気は?

加藤： 先輩たちはそれぞれ自分の担当する市町について熟知していて、真摯に向き合っていることが伝わってきます。そんな姿を見ると、良い意味で緊張感や責任感が高まります。

植本： ネウボラ推進グループは、自分の担当に限らず、隣の人が困っていればどんどんアドバイスするなど、チームで動いているという雰囲気があります。私も加藤さんが一人で抱え込むことがないように、積極的にアドバイスをしたり、コミュニケーションをとることを心がけています。市町の職員の方と交流できたり、目的地までの道中で他の職員と親交を深めたり、ヒアリングのために県庁から外に出向くひとときも楽しみの一つです。

県庁に入って意外だったことは?

加藤： 入庁前に想像していたような堅苦しい雰囲気がなく、執務室も開放感があって快適に仕事ができます。

植本： 私は二つあります。一つは入庁当初に感じたことで、裁量の幅が広いこと。入庁前は「やるべきことはルール通りにやりなさい」というような決まりごとが多いのかなと思っていたのですが、正解は一つではなく、ルールの範囲内で県民にとってプラスなのはどの方法かという視点でアイデアを出し、意見を聞いてもらえる環境です。もう一つは最近感じていることで、働き方が柔軟なこと。私が入庁してこの8年間のうちに、テレワークや育児関係の環境整備が進みました。自分自身、家庭の事情で一時期テレワーク中心の働き方をしていたのですが、設備面のサポートや職場のメンバーのフォローなどのおかげで、大変な時期にも家庭と仕事を両立できました。

＼ 受験者の皆さんへメッセージ ／

皆さんの中には、県庁に入ってやりたいことがある方もいらっしゃるかと思いますが、入庁してからも新たな気づきがあると思います。現在の強い志を大事にしながら、広い視野で見る目を持ってもらえたら、県庁生活をより楽しく有意義に過ごせると思います。

加藤 丈登

入庁3年目に「きれいごとに本気で取り組めるのが、県庁のいいところだ」と先輩に言われたことがとても印象に残っています。「県民にとって何が一番いいのか」や、「この方が絶対に社会が良くなるよね」といった理想に向かって、何が最善かを真剣に考えて全力で取り組める素敵な仕事です。私もその思いはずっと忘れずに持っておきたいですし、共感してくれる方と一緒に仕事ができたら嬉しいなと思います。

植本 圭哉